

IV 福岡空港の空港能力の評価と見極め

4. 将来の空港能力の見極め

まとめ

福岡空港の将来の潜在的な年間発着回数は2012年度で15.3～16.1万回程度、2022年度には16.6～19.2万回程度と見込まれ、年間の滑走路処理容量14.5万回を前提とすると処理容量が不足することになります。よって、福岡空港の年間滑走路処理容量は、2010年代の初期には余力がなくなるものと見込まれます。

航空サービス指標をみても、2010年代の初期からピーク時間帯の増便が困難になるとともに、離着陸の混雑する時間の拡大にもなって慢性的な混雑や遅延の発生が見込まれ、ひいては全国の航空ネットワークへの悪影響も懸念されます。また、新たな路線の開設も2010年代の初期にはできなくなり、現在就航している路線についての予約の取りづらさも2020年代には深刻化することも想定されます。

このように、福岡空港利用者に対する航空サービスの水準は、空港容量の余力がなくなるにつれて低下していくことになります。

なお、今回の評価は潜在的な需要の予測結果を当てはめた場合のものであり、今後とも、需要予測で前提としたことに変化が無いかどうか、福岡空港の実際の利用状況がどうなるか、引き続き注目する必要があります。